平成２５年度第２回大阪府高齢者医療懇談会
会　議　概　要

１　日　時　　平成２６年１月３０日（木）　午後３時００分～午後４時４０分

２　場　所　　ホテルプリムローズ大阪　２階「鳳凰西」

３　出席者

⑴ 大阪府高齢者医療懇談会委員

（５０音順）

上ノ山 幸子 委員、尾谷 肇 委員、坂本　光世 委員、高井 康之 委員、
玉井 金五 委員、道明 雅代 委員、林 正純 委員、森　詩恵 委員、
山下　修 委員、吉村 八重子 委員、吉本 恒心 委員

⑵ 事務局

事 務 局 長　籔本　冬樹　　事務局次長兼総務企画課長　森　雅博
資格管理課長　渡邊　武志　　給 付 課 長　黒川　清　　ほか

４　議　題

⑴ 制度施行状況について

⑵ 平成２６年度・２７年度保険料改定について

⑶ その他

５　傍聴人　　一般　９名　　報道関係　０社

６　議事の要旨

⑴ 制度施行状況について

資料に基づき事務局から説明を行った後、質疑・意見交換を行った。

⑵ 平成２６年度・２７年度保険料改定について

資料に基づき事務局から説明を行った後、質疑・意見交換を行った。

⑶ その他

資料に基づき事務局から説明を行った後、質疑・意見交換を行った。

７　質疑・意見交換等

(1) 制度施行状況について

（委　員）　昨日、会合があり、特定健診の書類をもらったが、やっぱり大阪市は今年も受診件数が少ない。一生懸命保健センターから送っていただいていて、私も声をかけるつもりだが。

（委　員）　私も２回ほど受けたことがあり、決められているのだろうが、健診の項目が少ないように思う。

（委　員）　特定健診は、国がメタボリックシンドロームという高血圧、糖尿病、肥満等について、早く発見し治療して医療費を抑えようという目的があったが、世界的にもそれらの病気を抑えられたことはあまりない。また、特定健診では、それ以外の病気に関してはほとんど調べていない。がん健診なども、一緒にやってくれる医療機関はあるが、基本的に健診項目には入っていない。糖尿病や高血圧、高脂血症等は特定健診でわかるが、それ以上は、国もあまり手を広げたくはないのだろう。人間ドックのように多くの検査項目がないのは事実だが、それでも脳梗塞や心筋梗塞などの予防に役立つので調べましょう、ということだ。

特定健診は、項目が少なく物足りないかもしれないが、国が決めた制度でありご理解をいただきたい。何か症状があれば、保険証を使って診断を受けたほうがいいが、何もないようであれば、特定健診でもいいかと思う。

（委　員）　まず、資料の１ページに被保険者数の推移があるが、後期高齢者医療制度の被保険者数の今後の伸びについて教えてほしい。

もう一点、私は、こちらの広域連合の委員のほかに、市町村の国民健康保険の委員をしているが、特に大阪府においては、後期高齢者医療に入る前の人が入っている国民健康保険の財政は大変厳しい。昨日、協会健保に速報が入ったが、国民健康保険の国のトータル財政としては、３千５５億円の赤字、単年度収支でも３３億円の赤字だということで、大変厳しい。入りが限られており、支出に対してバランスが取れない状況だ。

広域連合では、各都道府県のみなさんの努力で、かなり改善しているようだ。私どもは、サラリーマンの入っている保険の代表だが、私どもは収入の４割を後期高齢者医療へ拠出している。若干の改善はあるが、たいへん厳しい中、高齢者を支えるということで一生懸命やっている。

入りが限られるなかで、出をどうするかというと、健康の増進、予防ということをこれからしていって、元気な高齢者を作っていくのが大事だ。誰で

も病気になったりケガをしたりはしたくないし、いざという時はみなさん病院にかかったらいいが、普段、予防は、我々サラリーマンの健康保険においても、これに勝るものはない。

入りが増えないなかで出をどうやって抑えるかというと、やはり健康増進が大事だ。国民健康保険は、財政問題にかかっていて、健診等も含め健康増進の改革がなかなかできていない。けれど、健康増進の改革をすることは、ひいては保険料等にも影響する。広域連合では、健康増進を行う母体が地方自治体ということはあるだろうが、市町村や大阪府等に働きかけを強めてもらいたい。

（事務局）　被保険者数の推移については、現在、年間の増加は３万人を超え、国の人口動態調査等を見ても、もう少しこうした状況のまま推移するようで、２０３０年くらいが一番のピークということだ。したがって私どもとしては、後ほど保険料の説明で申し上げるが、２６、２７年度の伸び率としては４．３１％ぐらいであろうと見込んでいる。

全国的には、都市部以外では、先に高齢化が進んでいたこともあり、若干減少するところもあるなど、都道府県単位でいうとそれぞれ差はあるが、いわゆる都市部の東京、神奈川、愛知、大阪等では今後も伸びていく状況だ。

（事務局）　健康増進に関しては、後期高齢者の年齢以前から取り組まれていたものが、給付費の伸び等にも影響していると思っている。後期高齢者になる以前から、特定健診で統一してメタボリックシンドロームの予防等が行われている。広域連合としても引き続き病気の早期発見のため、健診を受診していただくことで医療費の増加抑制につなげたく、受診率の向上に向けた取り組みを行っていきたい。

⑵ 平成２６年度・２７年度保険料改定について

（委　員）　財政安定化基金について調整中ということだったが、これは府の一般財源とは別か。今日の朝日新聞の報道によると、広域連合から年約６億２千万円の補てんを求めたところ、府は「野放図に税で負担をすると保険制度が成り立たない。サービスを受ける人の自己負担を考えないといけない。」と言っているが、府は一般財源の助成のことを言っているのか。

（事務局）　朝日新聞の記事は、まさに財政安定化基金の拠出にかかる部分だ。財政安定化基金をいくらか入れていただいて保険料の抑制をしたいが、財政安定化基金の拠出については、財源は国と府と広域連合の保険料がそれぞれ負担をして、それを合算して基金へ入れる。それを取り崩して交付していただき、平均保険料を現行水準並みにできないか、ということで要望している。国、

府、保険料から、それぞれ単年度で約６億円、合算して約１８億円、２年間で約３７億円の交付を受けたいとお願いしている。

（委　員）　我々一人ひとりが健康に気をつけないとしかたないと思った。一人ひとりが健康になれば保険料も下がるだろう。

（委　員）　母が後期高齢者なので、保険料がどのくらいになるかは切実だ。来年の保険料は少し楽になるかと期待していたが、数字を表にしてもらった資料を見て説明を聞くと難しいと思った。先ほどおっしゃったように、我々が健康を考えて病気を予防するしかないだろう。もう病気の方はしかたないが、これから後期高齢者になる我々が自覚して健康管理をしないと、自分たちが苦しむことになると思った。

（委　員）　保険料の軽減対象者の拡大のところで、５割軽減、２割軽減の拡大対象となる人の人数はどのくらいか。

（事務局）　均等割の拡大の対象者は、現在の対象者については、制度施行状況の資料の２ページに表にしている。軽減が拡充されるということで、まず５割軽減のところで、今年度で１万９千人ぐらいのかたが該当しているが、これが４万人増えて５万９千人ぐらいになる。　２割軽減のほうはややこしくて、現在２割軽減の方のうち半数が、新たに５割軽減等となって出ていくためトータルとしては若干減少するが、今まで全く軽減に該当しておらず、今回新たに２割軽減になる方が３万２千人ぐらいいると考えている。

（委　員）　医療費の給付が増えるので保険料が上がる。医療費のなかで薬剤費については、ジェネリック医薬品の使用を促進するようにしなければならないが、広域連合として何か考えられているか。

（事務局）　医療費の抑制の手立てとして、ジェネリック医薬品の使用促進については今後も引き続き取り組んでいく。今年度も被保険者に、ジェネリック医薬品に切り替えたらこのぐらい医療費の負担が減るということを知らせる通知を送っており、今後も続けていきたい。

また、医療費通知の裏面に、ジェネリック医薬品の使用促進についてのＰＲを印刷して送付することも、今後やっていきたい。

（委　員）　広域連合の通知での説明と、薬局の店頭での説明を両方することによって、高齢者の方に理解していただきやすくなる。多くの方々にご理解いただいて、ジェネリック医薬品に変更していくということをしていきたいので、通知等はこれからも続けてほしい。

（委　員）　後期高齢者医療制度は国で決められた制度だが、市町村としても、できるだけ被保険者の方の保険料を抑えることができるよう頑張っていきたい。

（会　長）　保険料については、２月１７日の広域連合議会で最終的に決定することと思うが、今いくつかご意見をいただいたので、できるだけ活かしてほしい。

（事務局）　府の財政安定化基金の活用に関しての知事査定により、その結果を受けて、２月１７日の議会で決定する。

⑶その他

（委　員）一時少なくなっていたが、最近、息子を名乗っての詐欺もまた聞くようになったので、気をつけないといけない。私もみんなに注意するが、自分は全然関係ないと思っている人が多い。テレビでもよく報道されるので、それを見てわからないかと思うが難しい。注意を呼びかけるのに、経験者で話してくれる人がおり効果があった。大きな紙に書いて渡して注意しても、みんな読んでないので。大阪市内では最近、警察を名乗って騙して振り込ませる事件もあり、大阪のおばちゃんはしっかりしているというが、よく振込詐欺にあっているので油断してはいけない。

（会　長）　今は、携帯電話を使う人が増えたが、高齢者のなかには一部まだ固定電話を使っている方が残っている。スマホや携帯だと、番号を登録しているので誰からかかってきたかがわかりやすいが、固定電話だと識別しにくく、そういう面で両極に分かれている。

（委　員）　私は携帯を持っているが、家へかかって来る電話に対して、「○○さんですか。」と言われると「はい。」とは言うが、何かを買ってくれとか言われると、「私は留守番です。」と言う。そうすると切れるので、いい方法であり、みんなにもそうするよう言っている。